

徳島県立中央病院ER棟（仮称）基本構想（案）骨子

1 現況

県立中央病院は、「救急告示医療機関」、とりわけ重篤患者を対象とした三次救急医療を担う「救命救急センター」であるとともに、県内唯一の「基幹災害拠点病院」として、その責務はますます重みを増しており、これからも高度な医療を提供し、重要な役割を担う医療機関としての責務を果たすため、以下のような課題に対応していく必要がある。

- ・ 増加傾向にある救急搬送患者に対応し、救急医療を担うため、「救命救急センター」としての救命率の向上などの救急医療の充実を図る。
- ・ 南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害時に対応できるよう、災害拠点病院としての機能強化を図る。
- ・ 進歩が著しい医療に対応できる知識を有し、高度化が進む医療技術を的確に活用できるなど、専門性の高い医療人材の育成を図る。
- ・ 医師不足や医療機関・診療科の偏在に対応するため、「5G網」整備による遠隔医療の実現を図る。

2 ER棟整備基本方針

救命救急をはじめとする諸課題の解決に向け、県立中央病院ER棟の増築を構想し、その基本方針を以下のとおりとする。

(1) 県立中央病院に求められる次の4つの機能をER棟に付加・統合し、本館棟と連携することで、さらなる機能向上を図る。

①救命救急機能

- ・ 常時、高度な救命医療に対応する「救命救急センター」としての機能向上を図るため、ER棟では感染症外来をはじめとする救急医療を充実し、本館棟と連携した体制を構築する。

②災害対応機能

- ・ 「基幹災害拠点病院」として、発災時に速やかに危機事象に対応できるよう、「災害対策本部」や「DMAT活動拠点本部」においてシームレスで実効性の高い機能を充実させる。

③人材育成機能

- ・ キャリアアップにつながる魅力的な研修体制を確保するため、シミュレーター等を用いて医療技術の習得を図るための施設「スキルスラボ」を整備し、専門性の高い人材を育成する。

④地域医療支援機能（5Gによるオンライン支援）

- ・ 医療分野での「Society5.0」を実装するため、「5G網」により県立病院間を接続するとともに、「5Gオンライン診察室」を整備し、遠隔診療・遠隔診断・遠隔救急医療により地域医療を支援する。

(2) 本館棟においてER棟と連携し、医療機能を次のとおり拡充・充実することにより、医療需要に対応する。

- ・ 本館棟のER機能（二次・三次救急医療）を充実するとともに、重篤な患者を処置するICU・HCUを拡充し、高度医療に対応した医療体制を構築する。
- ・ 内視鏡の診断・治療の充実を図るため、本館棟の「内視鏡センター」をER棟へ移設・拡充し、救急患者に対する検査・治療件数の増加に対応可能な体制を構築する。

3 ER棟整備計画

(1) 全体

- ・ ER棟の建設位置は、本館棟南側の駐車場部分とする。
- ・ ER棟は、4階建て（一部5階建て）とし、災害時においても必要な医療機能を発揮するため、本館棟と同じ免震構造を採用する。
- ・ 本館棟との連絡は相互の機能を考慮し、2～4階にて渡り廊下で接続する。

(2) 各階の主な構成

- 1階：救急医療部門として、「感染症外来」や時間外の「救急外来」・「小児救急」に対応した施設を整備する。
- 2階：本館棟2階の内視鏡検査室を移設・拡充し、内視鏡センターとして整備する。
- 3階：通常時は、5G網を活用した遠隔診察室や会議室として利用し、災害時は、「災害対策本部」・「DMAT活動拠点本部」として利用する。
- 4階：最新のシミュレーション機器を備えた高度医療研修施設「スキルスラボ」として整備する。

4 スケジュール

- ・ 令和2年度当初～：基本設計・実施設計
- ・ 令和3年秋：建設工事着手
- ・ 令和4年中：ER棟完成

ER棟配置図

